

令和4年2月28日 14時00分  
資料配布 近畿地方整備局

## 「神戸港における CNP 形成に向けたロードマップ」を作成しました。

### ～神戸港カーボンニュートラルポート（CNP）検討会 とりまとめ～

国土交通省近畿地方整備局では、神戸港を対象としてカーボンニュートラルポート（CNP）の形成に向け神戸港 CNP 検討会（以下「検討会」という。）を立ち上げ、神戸港における CNP 形成に向けた今後の取組等について検討を進めて参りました。

今般、検討会での議論を踏まえ、「神戸港における CNP 形成に向けたロードマップ」を取りまとめましたのでお知らせいたします。

今後は、本ロードマップの内容も踏まえ、神戸市において神戸港 CNP 形成計画の策定に取り組む予定です。

#### ○経緯

- ・国土交通省近畿地方整備局では、国際物流の結節点かつ産業拠点である神戸港において、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化等を通じて「カーボンニュートラルポート」を形成するため、昨年1月に検討会を立ち上げ、4月に CNP 形成に向けた方向性や将来イメージ等を取りまとめ公表しました。
- ・上記の方向性や将来イメージ等に位置付けられた取組を着実に実施するため、引き続き検討会において各取組ごとのスケジュール感等について検討を進めて参りましたが、この度、具体的な内容や実施主体等を盛り込んだロードマップが完成したため、公表するものです。

#### ○ロードマップのポイント

- ・2050年の神戸港カーボンニュートラルポート形成に向けた道筋を示すため、検討会の構成員へのヒアリング等に基づき、神戸港における CNP 形成に向けた取組を「つくる」・「はこぶ」・「ためる」・「つかう」の4項目に分類し、短期（～2025年）、中期（～2030年）、長期（～2050年）でどのように取組を進めていくかを整理しました。
- ・「つくる」・「はこぶ」・「ためる」の3項目の取組の商用化または実用化は2030年頃を目標としており、神戸港においては2030年頃の水素供給体制の構築を目指します。
- ・「つかう」の項目のFC型RTG※の導入や陸上電力供給施設の整備等、港湾における取組については、2030年より早期の実現を目指します。（※燃料電池で稼働する荷役機械）

#### <取扱い>

<配布場所> 近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、神戸海運記者クラブ  
神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ、神戸経済記者クラブ  
港湾新聞社、マリタイムデーリーニュース社、海事プレス、港湾空港タイムス

<問合せ先> 近畿地方整備局 港湾空港部  
港湾高度利用調整官 富田 晃生（内線6454）  
クルーズ振興・港湾物流企画室長 大江 吉仁（内線6449）  
TEL:078-391-3102(直通) FAX:078-325-8288